

果樹類のハダニ類が多いため早期発見、防除に努めましょう！

7月のなしの巡回調査の結果、ハダニ類の発生は場率は 19.2%と、平年の約 3 倍（平年比 291 %）に達しており、非常に多い状況です。

気象庁の 1 か月予報によると（7 月 24 日発表）、今後 1 か月の平均気温は平年より高い見込みです。このため、ハダニ類の増殖や活動に好適な条件が続くと予想され、なし、りんご等の果樹類において、発生が増加することが懸念されます。

ハダニ類の発生状況をこまめに確認し、早期発見、早期防除に努めましょう。

1 防除対策と注意点

- （1）多発すると密度の抑制が困難になるため、写真 1、2 を参考にして、**早期発見・早期防除**に努める（表 1）。なお、防除の目安は、**1 葉当たり成虫数が、なしでは 1～2 頭、りんごでは 3 頭**である。
- （2）殺ダニ剤を散布する際、**散布ムラが生じないように、十分な薬液量で丁寧**に散布する。スピードスプレーヤーを使用する場合は、園地外周部等に散布ムラが生じないよう特に注意する。
- （3）**気門封鎖剤は虫体に直接かかるように十分な薬液量で散布**する。また、数日間隔で複数回散布することで孵化幼虫を防除したり、殺卵効果のある薬剤を併用したりすることで防除効果を高めることができる。
- （4）**殺ダニ剤散布直後の除草は控える**（下草のハダニ類が樹上に移動するため）。
- （5）ハダニ類に対する天敵を利用している園地では、天敵に影響する薬剤の使用を控える。
- （6）他害虫の防除にピレスロイド系やネオニコチノイド系等の殺虫剤を連用すると、天敵が減少し、ハダニ類の発生が増加するため注意する。



写真 1 ハダニ類による被害（葉のかすり症状）



写真 2 ハダニ類

表1 なし・りんごのハダニ類に登録のある主な薬剤（令和7（2025）年7月10日現在）

IRAC コード 注1	農薬名	登録の有無		希釈倍数	使用時期	本剤の 使用 回数	農業の系統
		なし	りんご				
6	コロマイト水和剤	○	○	2000倍	収穫前日まで	1回	マクロライド
20(B)	カネマイトフロアブル	○	○ 注2	1000～ 1500倍	注3	1回	アセキノシル
20(D)	マイトコーネフロアブル	○	○ 注2	1000～ 1500倍	収穫前日まで	1回	ビフェナゼート
23	エコマイト顆粒水和剤	○	○	2000倍	注4	1回	環状ケトエノール
25B	ダニコングフロアブル	○	○	2000倍	収穫前日まで	1回	カルボキサニリド
33	ダニオーテフロアブル 注5	○	○	注6	収穫前日まで	1回	アシノナピル
未分類	アカリタッチ乳剤	○ 注7	○	1000～ 3000倍	収穫前日まで	—	脂肪酸（気門封鎖）
	ムシラップ	○ 注8	○ 注8	500倍	収穫前日まで	—	その他（気門封鎖）
	粘着くん水和剤	○ 注9	○ 注9	500倍	収穫前日まで	—	その他（気門封鎖）

注1：薬剤感受性の低下を防ぐため、IRACコードの異なる薬剤をローテーション散布すること

注2：りんごの適用病害虫名は「ナミハダニ」の内容を記載

注3：なしでは「収穫前日まで」、りんごでは「収穫7日前まで」

注4：なしでは「収穫14日前まで」、りんごでは「収穫前日まで」

注5：銅剤との混用及び近接散布は避けること

注6：なしでは2000倍、りんごでは1000～2000倍

注7：果樹類（りんごを除く）

注8：果樹類

注9：果樹類（かんきつを除く）

※ 詳細は、「[栃木県農作物等病害虫雑草防除指針](#)」を参照。

詳細は、防除課（TEL028-665-1244）までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせは「[農業総合研究センターホームページ](#)」、
「[栃木県農政部_X](#)」でご覧いただけます。



【センターHP】



農作業中の熱中症に注意しましょう

- ・こまめな休憩、水分・塩分補給を行いましょう
- ・単独作業は避け、一人作業の場合は携帯電話を持ちましょう
- ・体調不良を感じたら、すぐに作業を中断し、涼しいところで休みましょう



～栃木県からのお知らせです～

6月～8月は、「栃木県農薬危害防止運動」の実施期間です。



- ① 安全作業の第一歩！ 農薬散布時の身支度は万全に！
- ② いつものチェック！ 農薬使用の際は、ラベルをよく読み正しく使いましょう！
- ③ 農薬散布のその前に！ 風量や風向きに注意して、飛散防止に努めましょう！
- ④ 周辺への配慮！ 住宅地等でやむを得ず農薬を使用する際は十分に配慮しましょう！
- ⑤ 農薬散布のその後に！ 防除器具の洗浄も欠かさずに行いましょう！